

私の工夫

これまでを振り返って。
そして、これからできることを考える。

前岡山市立京山中学校 教諭
現岡山市教育委員会学校指導課
指導副主査 小村 将司



1 はじめに

この春から岡山市教育委員会事務局で勤務することとなった。教育委員会での仕事はこれまでの中学教師として担任業務や数学の授業、部活動の指導に励む日々とはガラッと変わるものだった。ここではこれまでを中心に振り返り、考えたことを書かせていただく。

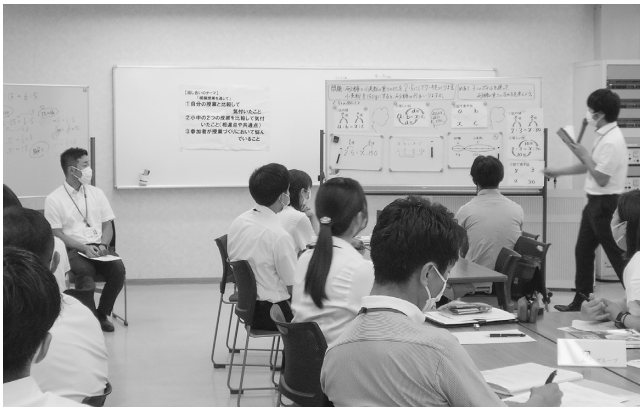
を行った。同じ単元・内容の授業を算数と数学のそれぞれの視点から考えた。

まず、一緒に公開授業をする小学校の先生と指導案を作るにあたり、それぞれの思いを話し合った。そして、算数の学習内容の中で課題とされている比・割合に注目し、中1ギャップの解消を意識して小学校第6学年算数と中学校第1学年数学の授業を行うことにした。

2 つながりの中で

昨年度は岡山市教育委員会が行う事業の一つの学力向上プロジェクトに関わった。小学校の先生と一緒に、若手の先生に向けて授業

数学の教科書には「ふりかえり」として算数で学んだ内容が掲載されており、算数とのつながりを大切に行っていることがわかる。しかし、私は算数の教科書を読んだことがなく、小学校での学びにつ



ふりかえりの様子



授業づくりの様子

て深く理解せず授業を行っていた。算数から数学に変わる際のギャップを解消するためにも、学習内容はもちろん、小学校の先生方の思いを知り、つながるように数学の指導をしていくことが今は大切だと考える。

中学校の3年間だけを見るのではなく、就学前から小、中学校、そして、その先へと成長していく子どもの姿を見ていきたい。就学前教育、小学校ではどのような力を身に付けさせているか。そして、それを中学校でどのように伸ばしていくか。その先も自分で成長できる力をつけるために。そういったつながりを大切にして子どもたちに関わっていくことが大切なのだと感じる。

例えば、我が子のことを見ても、下の子はこども園の意図的な環境づくりにより、登園すると目の前にカラフルな色水や大きささまざまなカップ、シャボン玉、魚すくいなど、まるでお祭りのような光景

が広がっている。子どもたちの興味が引きつけ、ワクワクする遊びが展開できるようになっている。



カラフルな色水が置いてある。遊びの中に学習につながる工夫がある。

上の子は小学校1年生の毎日の宿題で「いくつといくつ」を読むことや教科書の音読をしている。先生はその宿題の記録カードや名前の書き方など一つ一つを丁寧にチェックしてくれている。このように、それぞれの時期に合わせて先生方は色々な勉強の基礎につながることに取り組むことができるようにしている。そして、子ども

たちに温かい言葉をかけてくれたり、コメントを残してくれていることを我が子から聞く。こういったことを経て中学校に入学して子どもたちを自分は引き受けていたのだと、今の立場になり、様々な学校の工夫や思いにふれ、感じることもある。

| よむところ | かいすう | はっさり | まちがえ | きもちを |
|----------|------|------|------|------|
| | | | ずに | こめて |
| おおきなななび | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | |
| | | | | |
| おむすびころりん | 3 | 0 | 0 | 0 |
| | 3 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | |
| | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | |
| | | | | |

宿題1つ1つに温かいコメント

3 ICTを使って

教育委員会での私の分掌の一つである。今年度、岡山市では英語と算数・数学の指導者用デジタル教科書を全校に配備している。現在

取り組んでいることは先生方に授業の中でデジタル教科書を使ってもらい、効果的な活用法を探っていたことである。

思い返してみても、私はデジタル教科書だけでなく、ICTを使っている授業はあまりできていなかった。自分にとって「使いにくい」という理由だけで、特

にICT等の勉強もせずに、慣れた自分のスタイルで授業を行っていた。

今年度、学校指導課の担当になり、実際にデジタル教科書に触り、授業でどのように使う

のかを考えた。わかりやすいコンテンツや授業でそのまま使える画面が多数あり、「なぜ自分は今までICTを敬遠していたのか」と後悔した。使ってみる、触ってみるという最初の一步を踏み出すことで自分の授業もより良いものになっていったのではないかと思う。

4 おわりに

今年度から目の前に子どもはいない。子どもと一緒に学ぶことが好きでこの仕事を選んだのに、それができない。しかし、どうすれば子どものためになるか考えて、現場の先生にいろいろなことを発信していくことが今の自分の役割だと考える。ここで働いて感じるのは教育委員会でも「子どものため」や「先生方のため」という話がよく出る。学校にお願いをすることが増え、どうしたらこちらの思いが伝わるのかを考え、文書を作ったり、学校に電話をしたりしている。自分がここでやっていることが最前線で子どもの教育にたずさわる現場の先生方のためになり、そして、子どもたちのためになることを信じて。そうやって、今の立場でできる工夫を日々考えていきたい。